

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	大橋 直紹
論文担当者	主 査 廣瀬 宗孝
	副 査 石戸 聡
	副 査 竹末 芳生
学位論文名	The Comparison between Two Single-Drug Treatment of Recombinant
	Human Soluble Thrombomodulin(rhTM) and Anti-Thrombin (AT) on
	Septic Disseminated Intravascular Coagulation (DIC) (敗血症
	性DICに対するリコンビナントトロンボモジュリン単独投与とアンチトロンビン単独投与の治療効果)
論文審査の結果の要旨	
播種性血管内凝固症候群(DIC)は、血管内で持続的に凝固線溶系を活性化し、多発微小血栓による臓器障害をきたすため、抗凝固療法が行われる。また敗血症性DICでは、病原体を閉じ込める免疫血栓の形成から過剰な血栓が形成され、臓器障害や免疫血栓の破綻による炎症反応が生じる状態で、抗凝固療作用と抗炎症作用を有するアンチトロンビン製剤(AT)とリコンビナントトロンボモジュリン製剤(rhTM)の治療効果が期待されている。本研究では、AT単独投与とrhTM単独投与の有効性と安全性を後向きに検討した。 対象は2013年8月～2016年5月に兵庫医科大学病院ICUに入室した敗血症性DIC患者23例で、ガイドラインに準拠したDIC治療に加えてrhTM製剤を用いた10例(rhTM群)またはAT製剤を用いた13例(AT群)の2群に分けた。両製剤の投与開始日と投与6日後に、DICに関連するAPACHE II、SOFA、JAAM DIC、SIRS、PT比、D-dimer、血小板数、AT活性の各値を測定した。 結果は投与開始日における群間に有意差はなく、AT群の群内で有意差はなかった。一方、rhTM群のSOFA、JAAM DICおよびD-dimerの各値は、投与6日後で有意に低下した。また出血性副作用と28日死亡率の群間に有意差はなかった。 このように本研究において、敗血症性DICに対するrhTM単独投与はAT単独投与と比較して有効である可能性が示唆され、学位授与に値すると判断した。	